



乳幼児の事故を予防しよう！④ 誤飲・誤嚥(ごえん)



消費者庁と国民生活センター

が共同で行っている医療機関ネットワークによると、0・1・2歳児の事故の原因として多い順に「転落」事故、「転倒」事故、その次が「誤飲・誤嚥」事故です。今回は「誤飲・誤嚥」事故についてお伝えします。

「誤飲・誤嚥」による事故は0・1・2歳児の事故のきつかけの各年齢において第3位です。

誤飲したものや、体内でとどまった部位によっては入院を要することもあります。

0・1歳では電池・タバコ用品、2歳では医薬品・電池が上位です。医薬品の種類はさまざまですが、年齢があがるとともにその割合が増えていきます。電池はボタン電池が目立ちます。

その他、「遊んでいたシールを飲み込んでしまった」「ペットボトルのフィルムをはがして口に入れた」「ペット用のトイレの砂を飲んだ」等、大人だけの生活では想像しにくいものを口に入れたケースがみられ、重篤な状態に陥ったケースもあります。

表1 年齢別口に入れたモノ

0歳		1歳		2歳	
口に入れたモノ	件数	口に入れたモノ	件数	口に入れたモノ	件数
タバコ用品	94	電池	107	医薬品	55
電池	42	タバコ用品	103	電池	20
事務用紙製品	40	医薬品	69	コイン	19
飲料全般	31	コイン	39	食器	17
玩具・遊具全般	26	食器	23	住居雑品	13

医療機関ネットワーク情報に寄せられた件数
(2010年12月～2015年11月)より

事例1 タバコを1本食べ、半分は出した。その後、嘔吐し嘔吐物にたばこのかすがあった。顔色不良、要入院。(8か月女児)

事例2 テレビのリモコンで遊んでいた。その後、リモコンのボタン電池がないことに気づいた。食道の上部にボタン電池があり、3時間かけて摘出した。(1歳5か月男児)

事例3 親が目を離したときにネコのトイレ用の砂で遊んでいたように、トイレ用の砂を口に含んだ。すぐに気づき、口の中の3個のうち2個を取り出したが、1個が奥に入った。吸い込んでしまい、顔色が不良となったため救急車を呼んだ。気管挿管したが、人工呼吸管理できず人工心肺装置を装着した。導入後、気管内視鏡で気道異物を摘出した。(1歳1か月女児)

事例4 祖父の脳梗塞・前立腺肥大・頭痛の薬3種類3錠を飲んでしまい、胃洗浄にて入院。(2歳9か月女児)

※誤飲ではありませんが、ビーズを耳や鼻に入れてしまう事故が徐々に増えています。

事例5 遊んでいて鼻の中にビーズが入ってしまい、救急外来を受診して取り出した。(1歳11か月男児)

健康教室のお知らせ

▶お申込み・お問い合わせ：健康福祉課 保健係
☎64-1120

これならできる!! 減量大作戦 ウォーキングをしよう!	10月12日(水) 10時～11時
これならできる!! 減量大作戦 食事でやせよう!	10月26日(水) 10時～11時
講師 管理栄養士 濱 圭子 先生	

場所：役場1階 保健センター